

林業普及週間現地情報 (5 / 15 ~ 5 / 21)

森林管理課

おきなわの木のインテリアへの新たな利活用

5月16日(火)

沖縄県は亜熱帯性気候に属しており、そのため日本本土とは違った多様な樹種から構成される森林が広がっている。

樹種が多様であることから、その木目や色合い、質感も様々であり、沖縄ならわではの非常に魅力的な一面を持っている一方で、スギやヒノキと違って、まっすぐに育たず、乾燥にも時間がかかること、また大量かつ安定的に木材を供給する能力が不十分であることから、これまで建築分野への活用が進まなかった状況にある。

そこで、県では、林業従事者、木材加工流通業者、設計・建築関係者等、木材の供給側から利用側までの多くの関係者との連携・協力により、おきなわの木の良い点、悪い点を改めて見直し、新たな県産木材の利活用の方法を提案することで、県産木材の需要拡大に向けて取り組んでいるところである。

具体的な成果としては、おきなわの木の特徴である多樹種かつ安定的な供給を実現するため小規格の材の利活用を組み合わせた県産木製タイルを試作した。施工についても、比較的簡単で、今後はD I Yでの利活用も視野に入れて、活用事例の創出に向けて、積極的に取り組んでいく。

(報告者：森林管理課 井口)

